

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：熊本県山鹿市立山鹿中学校
- 2 実施日時：2018（平成 30）年 11 月 21 日（水）13:55～15:45
- 3 対象：全校生徒 689 名
- 4 派遣オリンピック：江里口匡史さん  
(陸上競技 100m 走、4×100m リレー ロンドン大会 出場および 4 位)
- 5 授業内容：実技指導、講演、部活動指導

2018 年 11 月 21 日（水）に、山鹿市立山鹿中において、オリンピック・パラリンピック実践が行われました。今回の実践では、山鹿市の隣に位置する菊池市出身で、陸上競技のオリンピックである江里口匡史さんをお招きし、実技指導ならびに講演が行われました。

はじめに、校庭に集まった全校生徒を対象に、江里口さんが実技指導を行いました。今回の実践では、各クラスの体育委員が代表として指導を受けました。簡単な準備運動の後、江里口さんから正しい姿勢の説明があり、生徒たちはその姿勢を保ったままでの足踏みや腿上げに取り組んでいました。次に、ハードルを用いて行う連続ジャンプの練習が紹介されました。数名の生徒がチャレンジした後、江里口さんによる実演があり、そのジャンプの高さに見ている生徒達からは感嘆の声があがっていました。実技指導の最後には、各運動部のキャプテンが代表となって、江里口さんと 50m 走を競いました。あっという間にスピードを上げ、生徒達を引き離した江里口さんの走りに、ここでも多くの歓声があがっていました。

実技指導終了後は、体育館に移動して「陸上を通して学んだこと」というテーマ講演が行われました。ロンドンオリンピックについて、引退までの競技生活について、陸上から学んだこと、の大きく 3 つが話されました。

江里口さんは、2012 年のオリンピックロンドン大会について、100m では予選落ちという結果に終わり大変悔しい思いをしたものの、気持ちを切り替えて挑んだ 1 週間後のリレーでは 4 位という結果を収めることができました(大会当時は 5 位だったが、3 年後にアメリカの選手にドーピングが発覚し繰り上げ)。閉会式については、写真も交えながら紹介し、「自分にとっては初めての大会だけど、きっとまた来るべき大会。ここは終わりではなくてスタートなのだろうな」ということを思ったそうです。

2015 年に疲労骨折を負い、2016 年 7 月に復帰しました。決して万全な状況ではなかったものの、2016 年 4 月に発生した熊本大地震を受け、熊本に何かしたいとの強い思いからの復帰だったそうです。しかし、2017 年に再度同じ部位を疲労骨折し、最終レースとして選んだ熊本での選考会をもって、2018 年夏に引退されました。

陸上を続けた 15 年間はあるという間だったといます。そして、江里口さんは、陸上を通して学んだこととして、特に、考えることの大切さについて強く述べていました。納得ができないと行動しない性格のため、何でもこれを練習するんだろう、何が必要なんだろう、と常に考えて競技を続けてきたことが、力を伸ばす要因になったと話していました。そして、考えるクセをつけることは、日々の生活にも生きてくると生徒にメッセージを伝えていました。また、周囲の人の大切さについても、引退セレモニーをやってもらったとき、特に感じたそうで

す。陸上は個人種目だけれど、たくさんの仲間やライバルに支えられていたことを感じたと話していました。今後は、熊本やスポーツ界に貢献していきたいとお話して下さいました。また、人として成長するために、これまで取り組んでこなかった陸上以外のことにも、積極的に取り組みたいと前向きに話して下さいました。

質疑応答の時間には、多くの生徒が手を挙げ、積極的に質問していました。陸上を始めたきっかけや、どんな練習をしていたか、節目ごとの進路選択の方法、勝負メシについて等の質問が挙がり、江里口さんは具体例を交えながら一つ一つに丁寧に答えていました。そして、全体での講演の後には、陸上部の生徒を対象とした部活動指導の場面も設けられました。

山鹿中では、前日に全校生徒が集まり、オリンピックや江里口さんについての事前学習を行ったとのことでした。そのため、講演や実技指導への関心も高く、意欲的な生徒の姿が多く見られた実践でした。

## 6 授業の様子



【 実技指導① 】



【 実技指導② 】



【 実技指導③ 】



【 実技指導④ 】



【 講演 】



【 お礼の言葉 】